

子育てワンポイント 励ましのことば10

人格について②

子育てが難しいのは、子どもの人格が十分に育っていないところにあります。ですから「育てる」必要があります。



人間にとっても最も幸せなことは、人格的に生きるということです。自分で考え、判断し、選び、それを表現できることです。

逆に最も傷つくことは、自らの人格が支配されることです。どんなに親の願望通りになり、親に対して何でもハイと答え、親の敷いたレールに子どもが乗ったとしても、子どもが自分で考え、判断し、選んだのでなければ、子ども自身は幸せを感じないでしょう。人格が支配されることは、人間存在の最も深い部分が傷つくこととなります。

子育てが難しいのは、子どもの人格が十分に育っていないところにあります。ですから「育てる」必要があります。0歳の子どもは人格を表現することが未熟ですから、親がそれを補います。2歳の子どもの場合、包丁で野菜を切りたいと言っても、「あなたの人格を尊重するから切らせてあげましょう」とは言いません。しかし、12歳の子には包丁の使い方を教え、それを何のために使い、使わないかを「自分で」考え、判断する力を養っていく必要があります。そして18～22歳になる頃には、子どもの人格を100%尊重できたら、めでたく自立してゆくでしょう。

子どもが小さい時に親が子供の人格を補うことをしないなら、それは育児放棄になり、逆に子どもが大きくなっても、人格を認めず、自分で物事を決められないままなら、過干渉(過保護)ということになります。つづく…

バランスが難しいですね。子どもは、自分と同じでない、別の人格をもったひとりの人であり、また神様から預けられた尊い命であると自覚しながら、子育てを楽しみたいと思わされます。Pastor K